



## 春の伊那

山田 宗夫

(長野)

### このごろの私

木曜は家の掃除日なので叱られぬうちに掃除機を持つ。腰痛軽減でゆくジムは木曜定休なので天竜河畔ウォーキング。その足で木曜シニア3割引のDVDレンタル、また寅さん。木曜は好日。

たくはへのじやが芋のこり一囊となりぬ籠もれる日々を食みつぎ

しづやかに雪のかをりのきて目ざむ妻を起こさず雪かきに出る

雪かきのされぬシャッター街の道けさは轍にうすごほり張る

ひろらかな御嶽山の雪原に入山規制のふだがまた立つ

結氷のかんばの森のみづうみを角の輝りつつ鹿わたりたり

高遠の囲み屋敷にありはてし絵島をおもへ家居倦む日は

山畑のはたの根雪のゆるびゆく日にけに森の影の退りて

籬の日の風のなければをのこらがかの田この田の土手を焚きをり

移住してきたる青年ほがらにて芋の植ゑとき畑に問ひくる

冬山を生き存へし鹿の子のヒトのたくみな毘に死したり

駅頭の募金に応へつつかなしだあれもゆかぬままなるキーウ

空店あきだなを毀ちて生れし街中まちなかの空き地しづかに畑に還りぬ

末社なる村の諏訪社の孟宗がほどのふとさの御柱なり

完熟の「不知火」とほく賜りぬ四国遍路にわれの立ちたし

春の伊那高校駅伝のアンカーがアルプス背負しようて翔けおりてくる



## さびしき夕べ

東坂小夜子

(神奈川)

このごろの私  
コロナ禍の中、せっせとス  
ポーツクラブに通っている。  
マスクをしての運動だが、汗  
を流して、心身ともにすつき  
りしている。馴染の人と声を  
かけ合うのも、なぐさめにな  
っている。

寝静まる深夜にひそと池の水こほりに未来をどちこめてゆく

菜の花はのどかに畑に広がりて午後の日ざしをやはらかくする

企てし悪事を隠すごとく咲く桜並木の夕暮の道

ひとり居の早朝の間にそつと声かけるがごとく雨降り始む

受験用参考書の束すてられて新生活の始まる四月

クレーンはすつくと立てり若者のりりしさもちてスタンバイする

電線のむくどり二羽が飛び立ちぬいくよまつてと声をあげつつ

太陽のほひのしみたバスタオルかかへて見上ぐ今日の夕焼け

置かれたる本のページをめくりつつ斜め読みして風はゆきたり

黒雲におほはれつつも満月は黄色の光すかしつつゆく

片付けて出できし日記いぐわいにも自分に厳しい学生時代

父逝きし日に玄関で吾を待ち消えさうだつた母はもう亡し

坂道を登れば思ふ亡き母の登れなかつた神社の階段

大泣きをする夢をみて目覚めたり胸に哀しみ広がりしまま

毎日の水泳ノルマの老婦人泳ぎ渡るとふ三途の川も